

大正五年四月六日第三種郵便物認可  
昭和二十五年十二月二十五日印刷（毎月一回一日發行）

# 哲學研究

第三十五卷 第一冊

第三百九十九號

昭和二十六年一月一日發行

支那思想に於ける自由と必然……………重澤俊郎

危機神學の生成とその展開（承前）……………樋元和一  
——近世前期フランス精神史論——

ヘーゲルに於ける人倫の成立……………岸畑豐  
の一過程……………

兒童心理學の近況（國原太郎）

京都大學文學部内  
京都哲學會

## 京都哲學會規約

- 一、本會は廣義における哲學の研究とその普及を圖ることを目的とする
- 一、右の目的のために次の事業を行ふ
- (一) 毎月一回研究會を開く
- (二) 毎年公開講演會を開く
- (三) 毎月一回「哲學研究」を發行する
- 一、本會の事業を遂行するために委員若干名をおく、委員は京都大學哲學科教官及び委員會において推薦した著に委嘱する
- 一、本會は會員組織とし、會員には資格の制限を設けない、學校・圖書館・其他の團體は團體の名を以て入會することもできる
- 一、會員は會費として年五四〇圓、又は半年二七〇圓を前納する
- 一、會員は會誌の配布を受け、會誌に豫告する諸種の行事に出席することができる
- 一、本會は事務所を京都大學文學部内におく
- 一、本會規約の改正變更は委員會の決議による

## 京都哲學會役員

委員

有賀鐵太郎  
 臼井照二  
 上野照夫  
 重澤俊郎  
 下程勇吉  
 島芳夫  
 關原太郎  
 高田三郎  
 武内義範  
 田中美知太郎  
 長尾雅人  
 野田又夫  
 松尾義海  
 三村勉  
 矢田部達郎  
 山内得立  
 井島勉

(四九) ベーコンが認識論の類型を獨斷論と懷疑論に二大別し、前者の悪い點は理性への過信、後者のそれは感覺への不信に在り、何れの態度も學の破壞を導くことに想到した點は正しかつたにしても「吾々は實際不可知論でなく不確知論に付て省察し、それを表白する」(Nos vero non Acataleptiam, sed Eucataleptiam meditantur et proponimus;... Cf. Novum Organum, L. I, § 126, ed. Bouillet, t. II, p. 78)と説きながら、自己の信奉する不確知論(Eucataleptia: *εὐκαταλεψία*)を、傾向的懷疑論としての不可知論(Acataleptia: *ἀκαταλεψία*)との對比に於てだけ追及した爲に不確知論自体に付て周匝な分析に基づく限界自覺は逸せられたと云つてよゝ。

(五〇) Nov. Org., L. I, § 104, ed. Bouillet, t. II, p. 62.

(五一) De Augm. L. II, ed. Bouillet, t. I, p. 108.

### 前 號 目 次

藝術の内容……………	井 島 勉
アリストテレスに於ける 知性の構造(完)	安 藤 孝 行
危機神學の生成とその展開(承前)……	樋 元 和 一
— 近代前期フランス精神史論 —	
第三十四卷 目次	

氣候、競争、奮闘、友好非友好的態度、要求水準、フラストレーション、アグレッション、などの問題が、この社會的狀況に於ける事象として、取上げられてきた。同時にこの問題は、社會的狀況に於ける適應の失敗や感情的葛藤に關聯し、精神分析學的興味に連り、性格形成の問題に結びつく。これらについて豊富な研究が積重ねられてきたが、今後益々、この方面は開拓され廻下されて行くであらう。

我國の兒童心理學界は、戰後、教育心理學の移植に多忙で、まだ本格的な兒童心理乃至發達心理學的研究にはいつてゐないのではないかと思はれる。勿論、兒童心理學に對する關心は、一般心理學的興味からくることもあり、教育乃至臨床心理學的の問題からくることもあるし、又發達心理學的立場から寄せられることもある。何れを本格的な兒童心理學の問題とするかは、人によつて意見が異なるかもしれない。併し何れにしても、我國の兒童心理學界は、研究者の数が比較的多いにも拘らず、又通俗的概説的著述が多いにも拘らず、實證的な研究の面では、戰後數年を経た今日でも、未だ何か沈滞してゐる感は免れ難い。兒童心理學の個々の仕事は比較的根氣のある而も些細な事柄が多い。これを組織的に結集することが大切であらう。この意味から、従來の我國に於ける關係文獻を網羅した武政太郎博士の『最新發達心理學』(昭和二十三年)や、兒童研究會編輯の『兒童心理學叢書』(昭和二十四年—二十五年)は、その勞を多とした。アメリカに於けるカーマイケル編の『兒童心理學總覽』(一九四六)と共に、今後の研究者に出發點を與へ、文獻索引の便を與へるであらう。

### 執 筆 者 紹 介

重 澤 俊 郎	樋 元 和 一	岸 畑 豊	岡 原 六 郎
京都大學文學部(支那哲學史) 教授	大阪市立大(哲學倫理學)助教	大阪大學教養部(倫理) 講師	京都大學文學部(心理學)助教

# 會 告

- 一、本會へ入會希望の方は京都市左京區田中西浦町弘文堂内京都哲學會宛に規定の會費をお拂込下さい
- 「振替口座京都一九五五六番 京都哲學會」
- 一、前金切れの場合は帶封に「前金切」の印を捺しますから直ちに御拂込下さい
- 一、會員の轉居入退會等(編集事務以外的一切)の事務は弘文堂内京都哲學會係へ御通知下さい
- 一、本誌の編集に関する通信・新刊書寄贈雜誌等すべて本會宛にお送り下さい

京都大學 京都哲學會  
文學部内

## 註 文 規 定

- 一、會員以外の購讀者の御註文及び廣告に関する件は「弘文堂」へ御申込下さい
- 一、本誌の御註文はすべて代金郵税共前金にてお送り下さい
- 一、特に請求書及び領收書等を要する場合は郵券八圓をお送り下さい

昭和二十五年十二月廿五ト印刷  
昭和二十六年一月一日發行

編集人 京都哲學會  
京都大學文學部内

三代表紙

三 村 勉

發行人 酒 井 明

印刷人 鈴 鹿 幸 保  
京都市田中西浦町四〇

印刷所 弘文堂印刷部  
京都市田中西浦町四〇

發行所 株式會社 弘文堂  
東京部千代田神田區河原町四ノ四

定 價	冊 數	定 價	郵 稅
一冊	冊	四十五圓	金三圓
六冊(前金)	冊	二百七十圓	金十八圓
十二冊(前金)	冊	五百四十圓	金三十六圓

(誌代の變更による會費の過不足は半年又は一年毎に精算いたします)

THE JOURNAL  
OF  
PHILOSOPHICAL STUDIES

THE TETSUGAKU KENKYU

Vol. XXXV

January, 1951

No. 1

*Freedom and Necessity in Chinese Thoughts*..... Toshio Shigezawa

*Origin of the Theology of Crisis and its Development:  
an Inquiry into the History of French Mind during  
the first Half of Modern Times*..... Waichi Himoto

*Genesis of the Concept of 'Sittlichkeit' in Hegel*....Yutaka Kishihata

*Academic News: Present-Day Currencies of the Researches in Child  
Psychology* ..... Taro Sonohara

Published Monthly

By

**THE KYOTO PHILOSOPHICAL SOCIETY**

(The Kyoto Tetsugaku-Kai)

Kyoto University

Kyoto, Japan